

特集

わたしと家族の台所物語

台所をとおして『家の光』が伝えてきた日本の食の100年の変遷、農家の台所、暮らしを振り返りながら、現在の食卓の風景やライフスタイルを見つめ、食と農の未来を考えます。

また、読者体験手記「台所の記憶」の結果発表と最優秀作品も掲載します。

特別企画

クイズで学ぶ

いまさら聞けない「食料」のこと

食料・農業・農村基本法が改正され、基本理念の一つに「食料安全保障の確保」が掲げられました。食料や農業をめぐる状況の把握と必要な行動や政策を理解することが求められています。そこで、食と農の知識と情報について、楽しく学びます。

別冊付録

いま、よみがえる『家の光』台所の知恵 ベストセレクション～料理・健康・手芸～

これまで『家の光』で掲載してきた生活に役立つ実用記事の中で、読者から人気の高いテーマごとに、アイデアが光る過去の記事を、現代にマッチした内容にアップデートしました。仲間と、やってみたくなる、創刊100周年を記念した永久保存版の付録です。



Facebook
やってます



定価 680円 (税込み)



インスタ
やってるよ



定価 576円 (税込み)

別冊付録

機は熟したか？

「スマート農業」がもたらすもの

スマート農業の導入は、農作業の効率化、収量や品質の向上など経営改善、技術継承の課題の解決と、さまざまな効果があることはわかっていても、いざとり入れるとなると、金銭面のハードルや技術の取得の面、あるいはそもそもスマート技術を必要としないと考えて、二の足を踏む農家も少なくありません。

一方で、「実証プロジェクト」を経て、あらゆる農業をカバーする技術が生まれ、実用化できる状態になってきました。さらに「スマート農業技術活用促進法」が施行され、スマート農業技術の活用と併せて生産方式の転換も促すなど、農林水産省は、取り組む農家の数を加速化させようとしています。

そこで、“スマート農業の現在地”を明らかにし、個人として、法人として、集落として、産地として、導入するさいの課題やメリットなどを整理して、今後の展望について伝えます。

特集

春にぴったいなお弁当を作ろう

春はお弁当を持ってピクニックや遠足に出かけたくなる季節です。今回は、子どもでも簡単に作れるお弁当のアイデアを紹介します。

まずは、おかず作りからスタート。ポテトサラダや卵焼の作り方を教わったり、ウインナーに切り込みを入れて動物の形にしたり、ニンジンやチーズを型抜きしてかわいく仕上げたりする方法を学びます。次に、ご飯をお弁当箱にきれいに詰め、ふりかけやそぼろで彩を加えるコツを教わります。おかずをバランスよく詰める工夫も習いながら、お弁当全体を華やかに仕上げます。完成したお弁当箱を開ければ、春の雰囲気を感じられる特別な一品に。自分で作ったお弁当を持って、春の外出を思いっきり楽しみましょう。